

第 19 回 東日本大震災アーカイブワークショップ議事メモ（公開用）

日 時：2026 年 1 月 28 日（水）13：10～15：10

場 所：Google Meet（Web 会議）

出席者：岩手県立図書館 諸岡 理恵

宮城県図書館 渡邊 雅弘

福島県立図書館 吉澤 風花

岩手大学図書館 遠山 正宏

福島大学附属図書館 門間 泰子、芦原 ひろみ、代田 有紗、鈴木 舞香

国立国会図書館 前田 紘志、岡本 史也、廣田 和也

防災科学技術研究所自然災害情報室 池田 千春、田中 亜紀子

防災専門図書館 堀田 弥生

東北大学附属図書館 吉田 幸苗、菅原 透、真籠 元子、落合 浩平、泊川 晃（事務局）

※欠席：仙台市民図書館

配付資料：

資料1. 第19回東日本大震災アーカイブワークショップ参加者名簿

資料2. 第18回東日本大震災アーカイブワークショップ議事要旨

資料3. タイの図書館制度・著作権管理・基礎データ整備の制度的課題

資料4. 各機関の活動報告書 ー震災記録の収集を中心にー

1. 開会

資料 1 に基づき出席者より自己紹介を行った。

2. 前回の議事要旨確認

資料 2 に基づき、前回第 18 回の議事要旨の確認について説明があった。

3. 発表

「タイの図書館制度・著作権管理・基礎データ整備の制度的課題

ー日本の図書館制度との比較からー」

発表者：東京科学大学 環境・社会理工学院 博士後期課程

Laosunthara Ampan 氏

- タイには包括的な図書館法が存在せず、司書の位置づけや役割、予算配分などが制度上あいまいである。
- タイ著作権法第 34 条では図書館での複製が認められているが、具体的な基準が乏

- しく、実務上の判断が困難である。
- スマトラ沖地震から 20 年以上が経過し、タイ国内では当時の関係資料が散逸・紛失している現状がある。

【質疑】

- タイにおける災害記録の公的な保存について

4. 各機関からの活動報告

資料 4 に基づき、各機関より報告および質疑等が行われた。以下各館の事項は口頭説明の要点記載につき、詳細は資料 4 を参照のこと。

(1) 岩手県立図書館

- 2025 年 11 月現在、図書 9,224 冊、雑誌 6,606 冊、その他 19,951 点を所蔵。
- いわて震災津波アーカイブ「希望」へのデジタル化資料掲載は、調整を経て本年度 3 月までの公開を目指している。
- 「I-ルーム」にて防災食の試食や災害救助犬を呼んだイベントなど、体験型のものも含むイベントを随時開催。

【質疑】

- 資料収集の経路について
- 企画の立案者について
- デジタル化を予定する資料の現状について

(2) 宮城県図書館

- 2025 年 3 月末現在、合計 13,622 点を所蔵。震災アーカイブの取組は収集整理から「保存・利用」フェーズへ移行。
- 本年度より専任職員を配置せず、資料情報・震災文庫班の 4 名による兼任体制へ組織統合された。

【質疑】

- 「公開保留」のコンテンツが多いことの原因について

(3) 福島県立図書館

- 2025 年 3 月末現在、図書 15,518 冊、雑誌 7,911 冊、視聴覚資料 283 点を所蔵。
- 収集体制について、特定のチームに集中させるのではなく、一般・児童などの各選書担当者（計 19 名）が日常業務の中で震災関連資料を並行して調査・選定する体制をとっている。
- 震災発生 15 年目に合わせ、2026 年 3 月以降に関連展示を行う予定。

【質疑】

- 県庁、市町村に対する行政資料の定期的な寄贈依頼の頻度について

(4) 岩手大学図書館

- 2026年1月現在、図書4,062冊、雑誌623冊などを所蔵。
- 2025年3月に自然災害関連リポジトリを新システムへ移行。
- 移行に伴い、リポジトリの対象を一枚もの・会議資料・電子資料に限定し、図書等はOPAC検索に集約させる整理を行った。

【質疑】

- リポジトリの対象から外された図書等の扱いについて

(5) 東北大学附属図書館

- 2025年12月末現在、図書5,460冊、雑誌・新聞3,306冊を所蔵。
- 運用方針を再検討し、現行体制を維持したまま、業務のスリム化を行うこととした。
- 2026年3月に、公式X(旧Twitter)を用いた震災ライブラリーの紹介を実施予定。

【質疑】

- 2026年3月の企画の具体案について
- 業務のスリム化の内容について

(6) 福島大学附属図書館

- 2026年1月現在、図書9,457冊、雑誌709冊を所蔵。
- 学術機関リポジトリと重複していないコンテンツの収集が進まないことが課題。
- 10月より「災害と文化」をテーマとした企画展示を実施。文化財や図書の復旧・伝承について紹介している。

(7) 国立国会図書館

- 「ひなぎく」の検索対象メタデータ数は約470万件(2025年12月末)。
- 2026年3月中旬に「ひなぎく」をリニューアル予定。ジャパンサーチの技術を基盤とし、地図検索、画像検索、ギャラリー機能などを新設する。

【質疑】

- リニューアル後の「ひなぎく」の機能の詳細について

(8) 防災科学技術研究所自然災害情報室

- 皇學館大学附属図書館、倉敷市立真備図書館、広島県立歴史博物館、神戸市立中央図書館の4箇所で開催した。研究員が監修した災害メカニズムの解説パネルや、連携先機関の所蔵資料を活用し、多くの来場者を得た。

- 図書館総合展において、ブース出展、フォーラムの開催を行った。
- 機関連携メーリングリストは、本年度新たに 12 機関が加わり計 45 機関となった。

(9) 防災専門図書館

- 2025 年度企画展「安政大変！～幕末の複合災害から学ぶ～」を開催中。クラウドファンディングにより作成したグッズの配布も行っている。
- 自治体・他館への防災講演を通じ、震災資料の重要性を発信している。FM 東京「みんなのサンデー防災」への出演や、図書館のミニ書評を作成して、連携先機関で購入、展示するなど、あらたな取り組みも実施した。

(10) 全体を通しての質疑

- デジタルアーカイブ活用の際の著作権処理のネックとなっている点について
- 収集の終期（チラシ等の「一枚もの」資料）について

5. その他

- 事務局より、次回ワークショップの日程について、2026 年 12 月から翌年 1 月頃の開催を見込んでいる旨説明があった。
- あわせて、メーリングリストの積極的な活用について再アナウンスがあった。

以 上